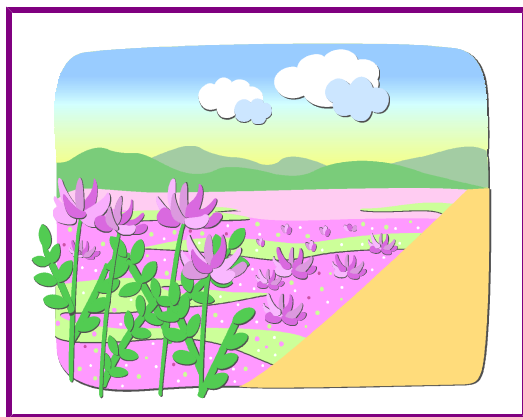


めぐみイエス・キリスト教会

2020年4月5日(日)第一主日礼拝
週報「通算第501号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時~11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時~7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分~7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年4月5日 第一主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌112「カルバリ山の十字架」 p. 158

【交読文】 No.53 ルカの福音書22章 p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌128「イースターの朝には」 p. 180

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.3 「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ルカの福音書19章28節～44節(新約p. 158下段)

【祈 禱】

【説 教】 《神の訪れの時》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 165

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 ルカの福音書19章28節～44節

19:28 これらのことを話してから、イエスはさらに進んで、エルサレムへと上って行かれた。

19:29 オリーブという山のふもとのベテパゲとベタニアに近づいたとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。

19:30 「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばが、つながれているのに気がつくでしょう。それをほどいて、連れて来なさい。

19:31 もし『どうして、ほどくのか』とだれかが尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」

19:32 使いに出された二人が行って見ると、イエスが言われたとおりであった。

19:33 彼らが子ろばをほどこいていると、持ち主たちが、「どうして、子ろばをほどくのか」と彼らに言った。

19:34 弟子たちは、「主がお入り用なのです」と言った。

19:35 二人はその子ろばをイエスのもとに連れて来た。そして、その上に自分たちの上着を掛けて、イエスをお乗せした。

19:36 イエスが進んで行かれると、人々は道に自分たちの上着を敷いた。

19:37 イエスがいよいよオリーブ山の下りにさしかかると、大勢の弟子たちはみな、自分たちが見たすべての力あるわざについて、喜びのあまりに大声で神を賛美し始めて、

19:38 こう言った。「祝福あれ、主の御名によって来られる方、王に。天には平和があるように。栄光がいと高き所にあるように。」

19:39 するとパリサイ人のうちの何人かが、群衆の中からイエスに向かって、「先生、あなたの弟子たちを叱って下さい」と言った。

19:40 イエスは答えられた。「私は、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」

19:41 エルサレムに近づいて、都をご覧になったイエスは、この都のために泣いて、言われた。

19:42 「もし、平和に向かう道を、この日おまえも知っていたら。しかし今、それはおまえの目から隠されている。

19:43 やがて次のような時代がおまえに来る。敵はおまえに対して壘を築き、包囲し、四方から攻め寄せ、

19:44 そしておまえと、中にいるおまえの子どもたちを地にたたきつける。彼らはおまえの中で、一つの石も、他の石の上に積まれたまま残してはおかない。それは、神の訪れの時を、おまえが知らなかったからだ。」

●ポイント1. ルカだけが書き記した「エルサレム滅亡」の預言とは？

※ルカの福音書21章19節～24節「主イエス様の教え」(新約p.163下段)

◎先週のメッセージの概要【過越の祭の六日前に】

《さて、主イエス様と十二使徒たちは、公生涯における四度目にあたる「過越の祭」の為に、都上りをして来られました。そしてその六日前に、ベタニアの村にやって来たのです。そこにはすでにラザロがいましたから、ラザロのよみがえりは、その時点よりも、数週間前になるかと思われれます。

さて、マルタとマリヤ姉妹のことは、ルカだけが書き記しています。マルタは、イエス様と弟子たちに、おいしい食事を持ってなすことを心がけ、妹マリヤは、イエス様のそばで、その教えに聞き入っていたと言うのです。マルタの心遣いも、そしてマリヤの態度も、イエス様は喜んで受け入れておられます。どちらも大切ですが、最も良い事は、イエス様のみ言葉に耳を傾けることなのです。もちろんマルタのしていたことも大切な事です。

さて、マルコとマタイの福音書には、今日の聖書箇所と同じ平行記事が記載されています。それによりますと、『イエスがベタニアで、ツァラアトに冒された人シモンの家におられると、ある女の人が、非常に高価な香油の入った小さな壺を持って、みもとにやって来た。そして、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。』と、書き記されています。

マリヤは、花嫁道具であり、しかも娘が生まれてから、両親が少しずつ買い足していった貴重な、純粹のナルドの香油三百グラムを惜しみ気もなく、イエス様の足と頭に降り注ぎ、髪の毛でぬぐったのです。

マリヤは、「十字架」の為に埋葬の準備をされたことを、主ご自身が弁明しておられます。弟子たちは、何度も受難予告を受けながらも、まったく理解していませんでした。しかしマリヤだけは分かっていたのです。

これから私たちは、「イースター」を迎えるわけですが、改めてクリスチャンのアイデンティティーとは何かを考えて見たいと思います。それは、私たちは、この世のものではないと言うことです。そしてそれは、イエス様の十字架と復活があってこそその恵みなのです。すべては恵みです。》

◎お知らせ

※次回イースター礼拝は、4月12日(日)に行ないます。また「聖書の学びと祈り会」は、4月8日(水)・15日・22日・29日は、各家庭にて行ないます。